



# 就学猶予・免除を受けた方に、 豊かな学校教育を！

七月十日(日)、青森市アウガで「教育・福祉セミナー」(守る

会と全障研青森支部が共催)が行われました。かつて「障がいが重い」などの理由から、学校教育が猶予・免除されたまま成人期を迎えた方々に、就学の門戸を開いてほしいとの願いからです。セミナーでは、福岡教育大学の猪狩恵美子教授から、障がいが重い方の教育の大切さを学び、参加者で意見交換を行いました。

## 夢はかなう



「学ぶ喜びをすべての人に！」講師の猪狩先生の言葉は最後まで明確でした。

日本では、養護学校の義務制が全国で完全実施されるまで、「障がいがかから」「施設に入所しているから」ということを言い訳にして、学校教育を猶予・免除してきた歴史が長く続いてきました。

その後は、「学齢を過ぎたから」「高齢だから」学校教育の対象ではないと主張する方もいます。

## 会員の声から

猪狩先生の講演では、四十年以上も前の「両親の集い」(守る会の会報)から、ずっと教育の大切さを語る多くの会員の声を紹介されました。

.....  
「教育はだれにとっても、生きる上でも最も重要な基礎であります。身体障害者にとってもはこれにそつなのであります」(参議院予算委員会公聴会での公述。一九九号、一九七〇年)

「重症児教育というものは卒業のない教育。成人に達したから、義務教育の年限をはずれたから」という処理は「子どもを中心に考える福祉とは言えない」(「両親の集い」三三三号、一九七五年).....

## 歴史を作ってきた方々に感謝して..

今の制度や施設・教育の拡充は、いつも先人の訴えや運動のおかげと言われます。



猪狩先生の大切にしてきた実践の積み重ねがあったからだといいことがよくわかりました。

猪狩先生の講演を通して、「就学猶予・免除」を受けた方々の教育を大切にするには、実は私たちの目の前にいる方々の教育を大切に考えることなのだと思えていたように思います。

## 一日も早い就学を！



「教育・福祉セミナー」では、午前・午後を通して、会場の参加者から、「声を出せない方や高齢の保護者に対して私たちに何ができるのだろうか」という問い

が、いろいろな立場から出されました。

猪狩先生からは、具体的なアドバイスとともに、「学校に行く人は意識が高い人、行かない人は低い人」という見方をせず、まずは学校教育の良さを知んなことをしているのかを知り合う機会を作っていくこと、また、希望している方の就学をまずは最優先に実現し、その学ぶ姿をみんなに見てもらうことが必要ではないかという意見でまとまりました。

◆◆◆  
この問題で就学の門戸が開いていないのは、東北ではもう秋田県と青森県だけです。高齢の方にとっては一年一年が重い意味をもちます。県の理解・協力を得て、一日でも早い就学を実現していきましょう。

(広報担当A記)